

本市の教育における厚木らしさについて

1 現教育振興基本計画における「厚木らしさ」と考え方について

(1) 厚木らしさについて

計画を構成する基本理念、基本目標、基本方針については、目指すべき教育の姿や身に付けるべき力を表わすことを主眼とし、普遍的な内容とすることを目指したことなどから、「厚木らしさ」という観点を取り入れるという考えはありませんでした。

(2) 考え方について

現計画は、教育のあるべき姿を「未来を担う人づくり」と捉え、この基本理念を実現するために、基本目標を定めました。これから誰も経験したことがない新たな時代を迎える中で、子どもたちにどのような教育が必要なのかを検討した結果、学習指導要領の基本理念に掲げる「生きる力」が必要と考えました。「生きる力」は、子どもも大人も必要な力であり、その力を発揮する場が社会となります。

基本目標の「拓く力」「感じる力」では、知・徳・体を中心とした教育全体にかかわる力として、「拓く力」において自分自身に係る事柄、「感じる力」において自分と他者とのかかわりに係る事柄、「築く力」では、個人と社会との関係や社会参加にかかわる力をまとめたものです。

2 「厚木らしさ」のある事業について

(1) コミュニティ・スクール推進事業（学校運営協議会）

学校、地域、家庭が協働して、教育活動や教育環境を充実させる事業。県内19市では、いち早く全校導入を完了させ、ゲストティーチャーや学校支援ボランティアなどによる様々な活動が展開されています。

(2) SEL教育基金事業

理工系の大学、企業が多く立地している特性をいかし、市内3大学・7企業の協力を得て、理科好きの子どもを育成する「おもしろ理科教室」を実施しているほか、優れた自由研究・科学作品を表彰する「厚木こども科学賞」を実施しています。

(3) インターナショナルセーフスクール推進事業

平成22年に清水小学校が安全な環境づくりを目指す学校に与える国際認証「インターナショナルセーフスクール」を国内で2番目に取得。活動は同地区の学校に広がり、平成27年に睦合東中学校、平成30年に妻田小学校が認証を取得しました。

(4) インクルーシブ教育推進事業

障がいの有無にかかわらず、全ての子どもができるだけ同じ場所で共に学ぶインクルーシブ教育を推進しています。県が指定するモデル校の毛利台小学校、玉川中学校において、授業づくりや環境整備、支援体制づくりについて研究に取り組み、その成果を基に全校で学校の実態に合わせた実践を進めています。

(5) 地域ぐるみ家庭教育支援事業

「地域で子どもを育てる」という意識の向上を目的に、平成29年から全地区で実

施しています。公民館行事や関係団体による地域イベントを家庭教育支援の視点に立って再検証し、子育て世帯と地域がもっと関われる事業に見直し、相互につながるきっかけづくりに取り組んでいます。

(6) 公民館活動事業

充実した館数、職員配置数といった強みをいかし、地域課題を意識した多数の学級・講座を全15公民館で実施しています。地域住民の教養の向上や健康増進、地域文化の振興など、地域の特性をいかした多彩な事業を展開しています。

(7) あつぎスポーツアカデミー推進事業

(公財)厚木市体育協会が実施する本事業に補助金を交付し、トップアスリートの輩出を目指したジュニアの育成、指導者の養成、生涯スポーツの普及・推進などに取り組んでいます。

(8) 日本体育大学との「体育・スポーツ振興に関する協定」

日本体育大学と結んだ協定に基づき、トップアスリートによる講演会や様々な種目のスポーツ教室、子どもたちを対象にした日体大でのスポーツキャンプなどを実施しています。

(9) 郷土博物館活動推進事業

自然豊かな環境の中で利用者が憩いながら厚木の文化や自然に親しみ、郷土への愛着と誇りを育む施設として「あつぎ郷土博物館」を建設しました。高規格な展示室施設を導入し、貴重な作品も展示できるようになりました。